

## 准教授就任のご挨拶

**准教授に就任して**

琉球大学医学部附属病院 血液浄化療法部 准教授 古波蔵 健太郎（7期生）



今年4月に附属病院血液浄化療法部の准教授に就任いたしました。部署は変わりましたが引き続き第三内科の腎グループで診療に携わっています。新たなチャレンジが始まったばかりで目先の業務に追われる日々です。これまで腎疾患の診療では治療効果の最大化(maximization)と最適化(optimization)という視点で個々の疾患を医学的な面のみならず精神的、社会的、経済的な面などにも目を向けて取り組んできました。最適化という視点では個々の年齢という時間軸を考慮に入れ、個別に目標を設定し個別化医療を実践してきました。研究面では東北大学で学位を取得した際の基礎研究のテーマである腎微小循環調節に関して沖縄に戻ってから臨床的な検討を継続してきましたが幸い臨床効果の最大化に大きく寄与していると実感しています。これまでの様々な取り組みの過程で新たに見出した知見を論文化するとともに現場で活用できるノウハウやツールとして県内はもとより県外での講演会の場を通じて発信してきました。最近、我々のそのような取り組みが実際にどの程度の成果を挙げているのかという観点から、腎臓の主要疾患の治療成績をまとめる作業を進めています。いわゆるクリニカルインディケータを自ら知るところから次のステージに移行することが重要だと考えています。ここまでまとめた範囲内では主たる腎疾患に対する治療成績はまずまずでむしろ非常に優れていることがわかりました。しかし、まだまだ不十分な面も多いのも事実で引き続き前述の取

り組みを様々な疾患を対象にPDCAサイクルを活用しながら進めていきたいと考えております。その過程においてはチームの力を結集することが重要ですが幸い近年、有望な若手医師が多く加わり活気が出てきました。個々の強みをさらに伸ばす手助けをしつつ、全体としてのベクトルを同じ方向に向けて結集させることが私にとって最も重要なタスクになっています。

今後、沖縄エリアというフィールド内で透析患者を減らすための包括的な仕組み作りに取り組んで、最終的には沖縄県が透析患者の最も少ないエリアになるようにすることが我々のミッションだと考えています。また、その過程を一般化しより多くの腎疾患患者の予後改善に寄与できるように発信を続けていきたいと思っています。

